

人口構造と都市八幡

2050 八幡 / 持続可能な社会・都市形成をめざして

プロローグ
人口構造
都市形成
持続可能な社会・都市形成
低炭素社会・ストック型社会への転換

岩下 陽市 (九州職業能力開発大学校)
次世代システム研究会 会長

1

プロローグ



2

約100年(1899→2006)の月日のながれ・・・



3



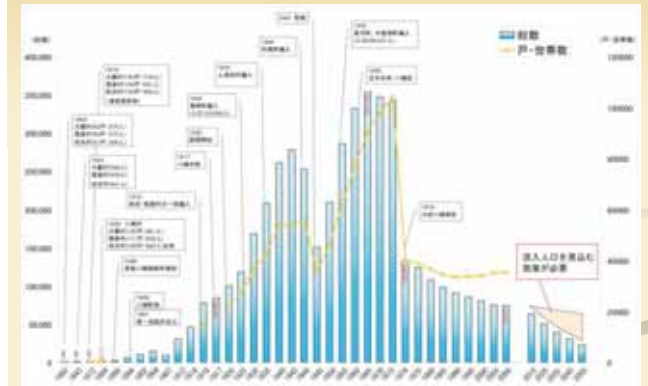
八幡周辺地区の断面概念図 (出典 五十嵐健氏作成)

4

都市別人口数/1920～2050年まで(国勢調査)

都市別人口数	1920	1930	1940	1950	1960	1970	1980	1990	2000	2010	2020	2030	2040	2050
東京	1,200,000	1,500,000	1,800,000	2,200,000	2,800,000	3,200,000	3,500,000	3,800,000	4,000,000	4,200,000	4,400,000	4,600,000	4,800,000	5,000,000
大阪	1,000,000	1,200,000	1,400,000	1,600,000	1,800,000	2,000,000	2,200,000	2,400,000	2,600,000	2,800,000	3,000,000	3,200,000	3,400,000	3,600,000
名古屋	800,000	900,000	1,000,000	1,100,000	1,200,000	1,300,000	1,400,000	1,500,000	1,600,000	1,700,000	1,800,000	1,900,000	2,000,000	2,100,000
京都	600,000	700,000	800,000	900,000	1,000,000	1,100,000	1,200,000	1,300,000	1,400,000	1,500,000	1,600,000	1,700,000	1,800,000	1,900,000
福岡	400,000	500,000	600,000	700,000	800,000	900,000	1,000,000	1,100,000	1,200,000	1,300,000	1,400,000	1,500,000	1,600,000	1,700,000

5



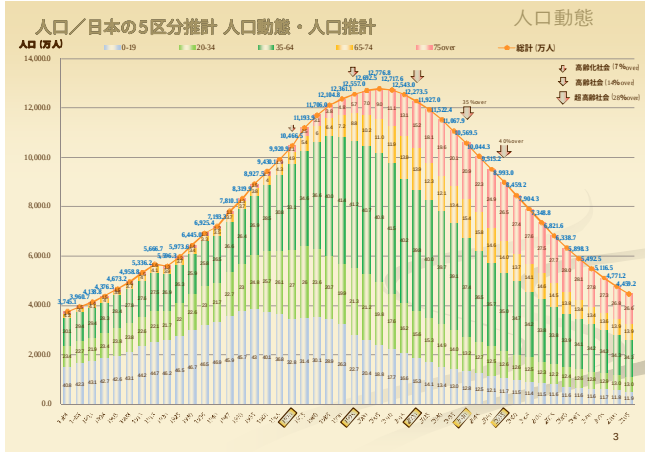
八幡市・八幡区・八幡東区の人口推移

6

Ⅰ. 人口構造推移・推計(人口5区分)

- 人口3区分(0～14歳、15～64歳、65歳以上)では人口構造の質で捉えにくいので5区分(0～19歳:就学前・就学人口、20～34歳:前期生産人口、35～64歳:後期生産人口、65～74歳:前期高齢者人口、75歳以上:後期高齢者人口)で分析を試みる。
- 日本の人口構造を1884～2100年で見ると、約3700万人→12700万人(ピーク2005年)→4700万人と予想されている。
- 少子高齢化社会
少子化割合
40.8% (1884年) → 46.9% (ピーク1940年) → 20.5% (2000年) → 12.5% (2050年) → 11.9% (2100年)
高齢化割合
5.7% (1884年) → 7.0% (高齢化社会1970年) → 14.5% (高齢社会1995年) → 29.3% (超高齢化社会2020年) → 36.5% (超高齢社会35%over2040年) → 40.7% (超高齢社会40%over2055年) → 40.9% (2100年)
- Under35の激減
23.4% (1884年) → 27.1% (ピーク1970年) → 19.9% (20%割込2005年) → 12.6% (2050年) → 13.0% (2100年)
- 家族類型の大きな変化
核家族 (特に 親+子) が消えていく。
単独世帯の増加。
- この人類史上初めての厄介な経験をする日本、北九州 (特に八幡東区) はかなり深刻です。

7



3

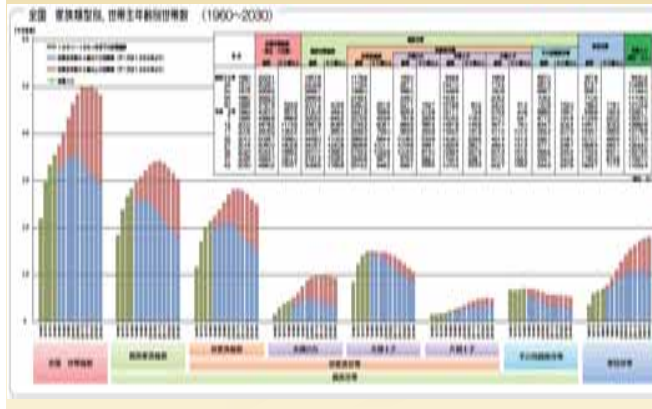
家族類型別世帯数



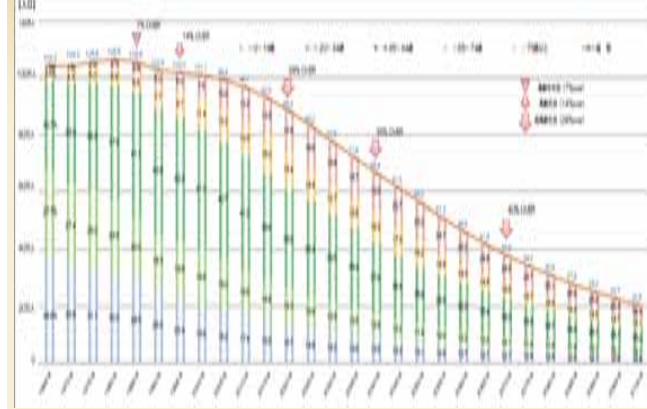
9

2050年のストック型社会

2050年って？

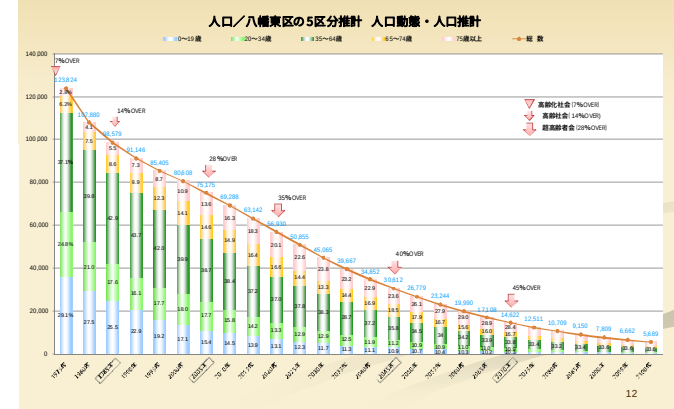


2050年のストック型社会 北九州市人口推計



2050年のストック型社会 八幡東区人口推計

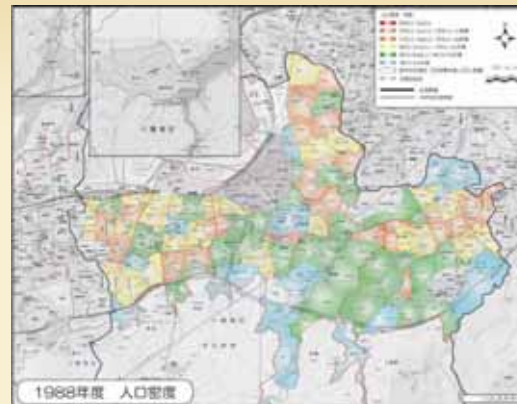
2050年って？



2050年のストック型社会 家族類型別世帯数

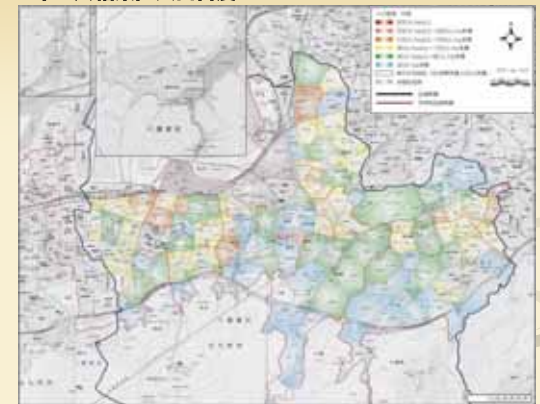


13

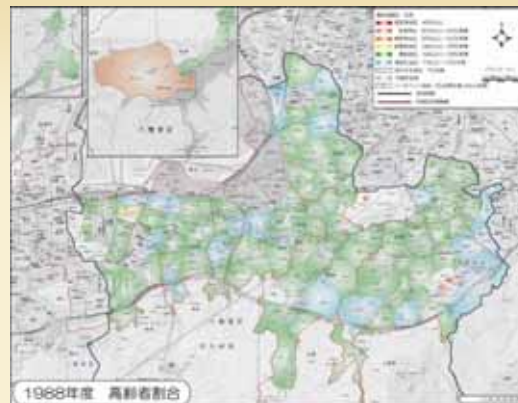


14

2008年の八幡東区人口密度

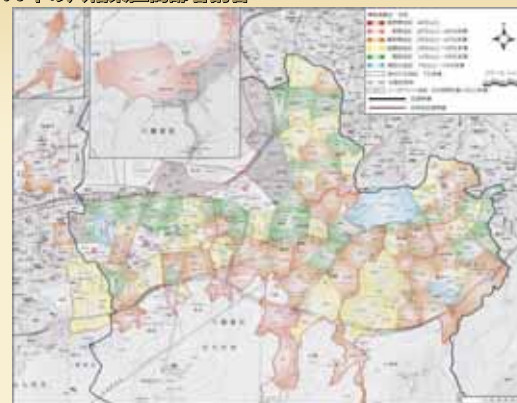


15



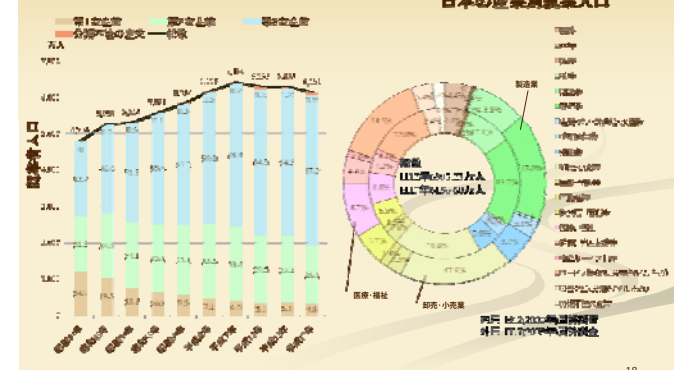
16

2008年の八幡東区高齢者割合

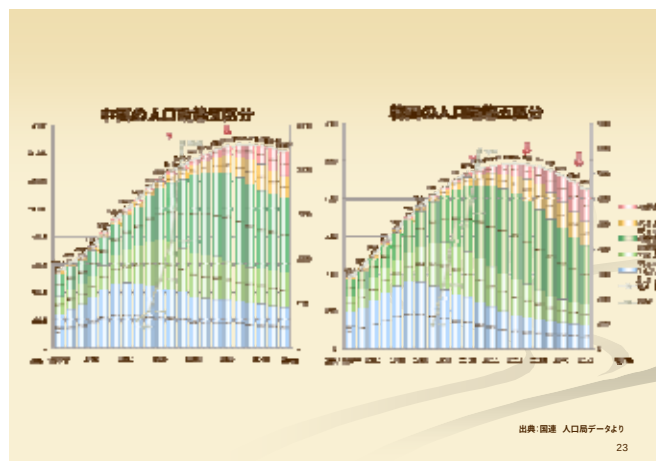
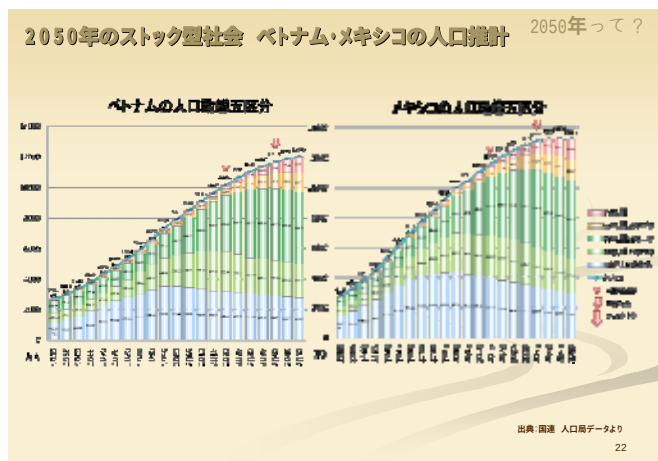
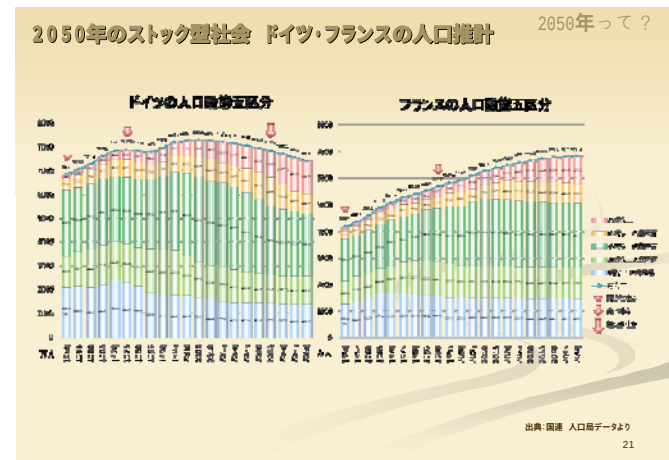
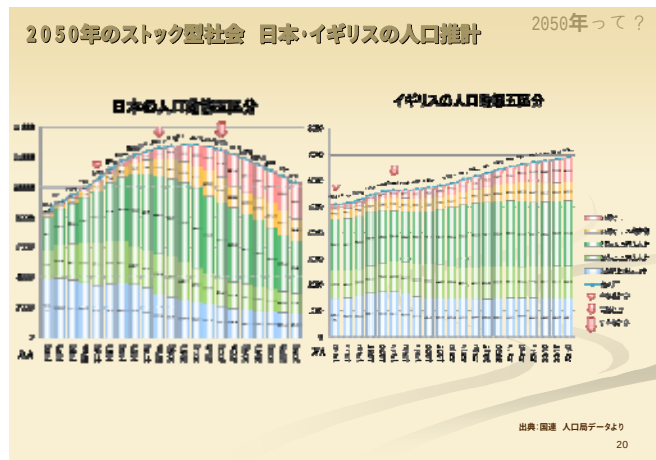
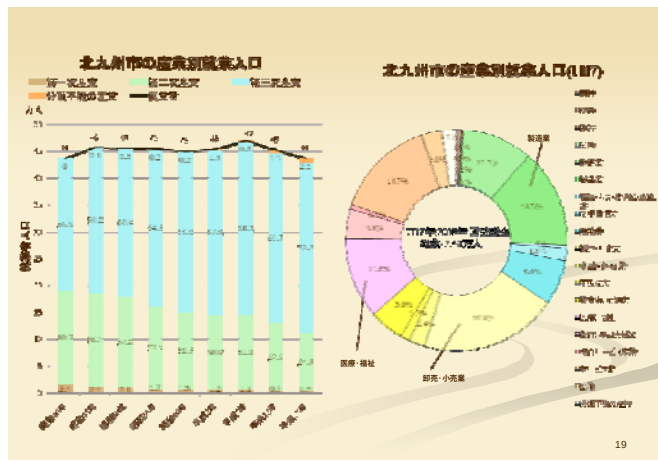


17

日本の産業別就業人口



18



II. プロジェクトの考え方 [東田 - 中央町 - 丸山・大谷地区]

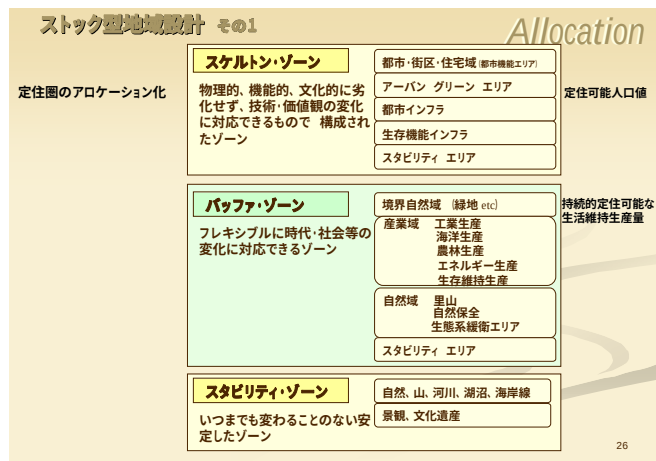
- 地形 (アロケーション) と市街地現状

南北：帆柱山系の尾根、丘陵地が延び南高北低の傾斜をもつ。
 東西：南北の帆柱山系、丘陵地帯を横切るのでアップ・ダウンが多い。
 東田地区と中央町のつながりが国道3号線を含む幹線道路3本によって分断されている。
 斜面地区の高齢化 (35～42.2%) が著しい。
- 都市的ストックの再評価

明治期～戦間期にかけて東西を走る道路が工業都市のインフラとして整備されてきた。
 戦災復興期にその流れを踏襲しながら、新たに南北に防火帯機能を有する広幅員道路が3ヶ所設けられた。また、市内に多数の公園が配置された。その都市資産の活用。
 更に、企業の保有する広大な土地の活用。
- 地区整備の基本方針

人口構造の検討
 経済・産業構造の検討
 生活・社会・都市基盤構造の検討

24



凡例	読み
 特選図書等特別蔵書 (2007年現在)	特選 特選図書等特別蔵書 (注) 1
 資料の記録形式	注1 特選図書等特別蔵書
 読者希望図書等蔵書	注1 特選図書等特別蔵書
 不正確な記録	注1 特選図書等特別蔵書
 特約の図書館蔵	注1 特選図書等特別蔵書
 7年連続貸出	注1 注1 特選図書等特別蔵書
 1冊 読者蔵	注1 注1 特選図書等特別蔵書
 特約 1冊 読者蔵	注1 注1 特選図書等特別蔵書
 1冊 読者蔵	注1 注1 特選図書等特別蔵書
 読者蔵	注1 注1 特選図書等特別蔵書
 読者蔵	注1 注1 特選図書等特別蔵書



北九州東部地区

小倉東断層
地盤が喜多砂地域
×石土系堆積層
黄魚鱗片地盤危険箇所
水色地すべり危険箇所
下関重層割分布地
軟弱な沖積層地域
海岸砂丘
干拓地・埋立地

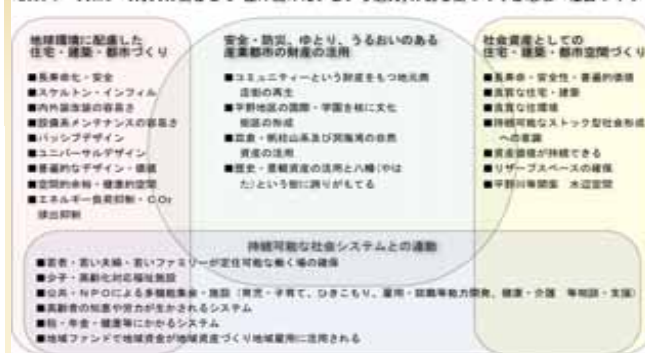
薄紫 河川氾濫想定区域

●公共施設・学校
▲公共・公営住宅

都市構造の変遷

	明治期	大正期	昭和期	平成期
			S13 街路事業開始 地区整理助成金（道路、街衢、割地、水路、暗渠、小公園） 道路事業開始（S7 18歳で163市の市、S9 北州市で666市）	企業退休地活用
	長崎街道 戸畑経由 九州鉄道 宮宮八幡製鉄所		S20 空襲被災状況 92.2万坪、人口5,475人 戸数 1,47万、死者1996人 S20 戦災復興計画（1モデル工業都市建設） S24 288.3ha 大宇城町 大字新南 大字尾高 大字枕元	
	小山切埋（埋立工事）		S25 国土総合開発法 北九州市臨工業区 12市6郡 八幡都市計画事業 住宅建設事業	
	工場・宅地化が急進に進む 耕地整理組合（近郊農業、宅地開発）			
	M36～T6、T14～S15 爆発の人口増			
		T5 戸数 14,822戸（県下1位） 人口 69,376人（県下3位、福岡・門司） T12 門司・小倉・八幡・若松など25都市 都市計画の指定（人口9万以上）		
人口	元禄3年（1692） 1058 天保14年（1842） 1468 M5年（1872） 1826 M22年（1842） 2111<八幡市> T6 1917> 84,682<八幡市>		S18年 278,610 S20年 151,378<敗戦> S35年 332,163 S40年 353,183<ピーク> S49年 132,599 S60年 88,576	H07年 85,405 H16年 74,695
	M31年（1898） 3014<八幡製鉄所建設> M33年（1900） 6460<八幡市>			

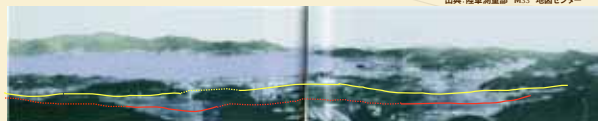
2050年 人口5～6万人の街として「住み続けたいという魅力」のある街づくりと地域・社会づくり



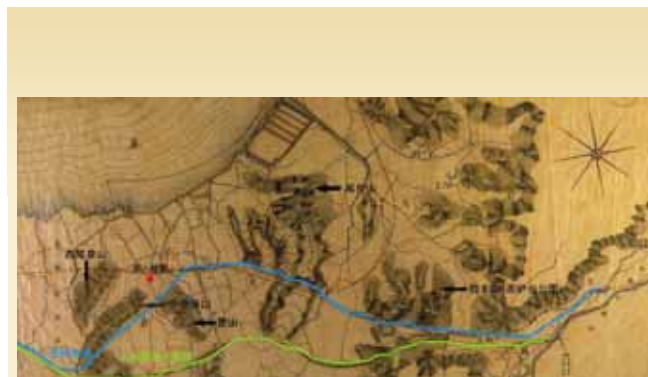
出典



出典：陸軍測量部 M33 地図センター



出典：北方州志中



1896(M29)年



1911(M44)年



1925(T14)年



1948(S23)年 36



1950(\$25)年

37



1964(\$39)年

38



現代 39

地区整備の基本方針

人口構造

2050年の八幡東区の人口 5～6万人 (推計参考値 2.6万人)
高齢化率 30% 台前半 (推計参考値 44%)
Under20 15% (推計参考値 10.7%)
Under35 (20～34歳) 20% (推計参考値 10.9%)

経済・産業構造

イノベーション産業・クリエイティブ産業の形成、知の形成
生産優位性、九州・アジア規模の経済
北九州広域都市圏1人当りGDP向上

生活・社会・都市基盤構造

生活・社会・都市基盤の長寿命化、資源・エネルギー自律化、低炭素社会
歩いて暮らせる街、安全・安心して暮らせる街づくり
多様な世代・世帯が暮らせる街づくり
次世代型産業形成と新たな雇用、ワークライフバランスの成熟
自然環境、都市緑地の形成
狭域循環エコバス
斜面地活用 (斜面地緑化、斜面地ハウジングプロジェクト)
東田ー中央町ー丸山・大谷ー一体化
自然エネルギー、都市排熱活用
コンパクトエリアの形成

40

III. トリガープロジェクト

若年人口の地域転入策の検討

- 産業構造の転換、次世代産業の形成により、イノベーション分野、クリエイティブ産業分野の人材、前期生産人口の転入を図る。
- 次世代産業従事者、在来産業従事者育成のための教育機関の質的向上・充実を図る。
- 北九州市内の大学・高専・高校等の卒業生の雇用の場の整備を図る。企業との連携でアジアからの留学生の受入と就職枠の拡充。
- 他県よりの市内進学者への優遇的学費制度。

将来の世帯構成と多様な住宅供給

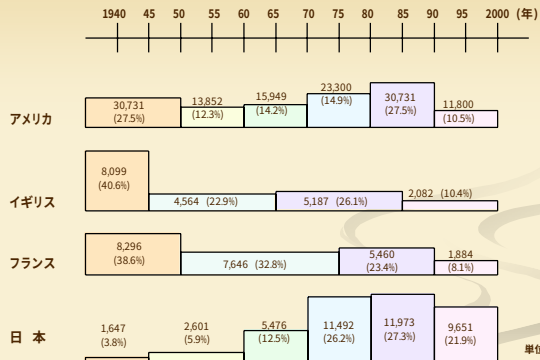
- 家族類型が核家族 (親+子) の減少、単独世帯・高齢世帯の増加等大きな変化がある。ライフスタイル、ライフステージに合った環境共生、長寿命、社会資産としての多様な住宅供給とリニューアルが課題となる。
- 前期生産世代への家賃等優遇策。
- 生活しやすい・歩いて暮らせる・安全安心の住環境の整備。
- 斜面地活用 (斜面地緑化、斜面地広敷地住宅、斜面地新ハウジング、斜面地活用施設)
- 環境共生型、長寿命化、資源自律化、可変性、メンテナンス性、パッシブデザイン、温熱環境配慮、多様な世代・世帯に対応、所有から使用への転換、グループホーム住宅等

道路空間と環境ネットワーク

- 歩いて暮らせる街づくり (歩いて楽しい緑道、風の道、都市緑地、ポケットパーク、クールスポット)
- 街区間歩行移動
- 小河川の開渠化
- 100mでバス停の狭域循環エコバスシステム

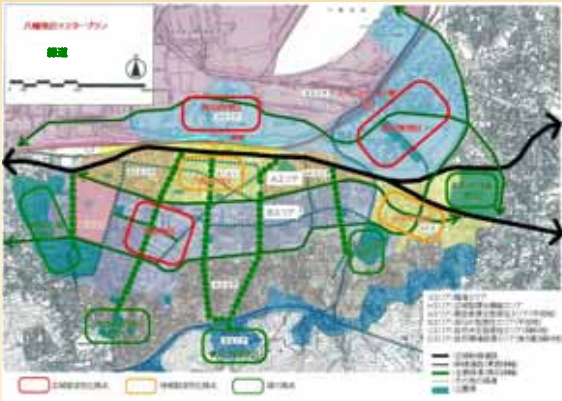
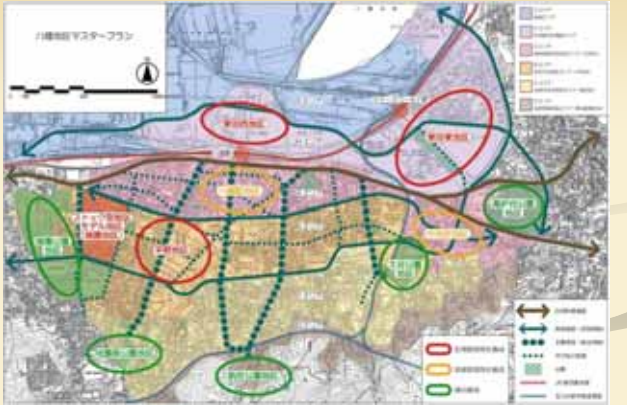
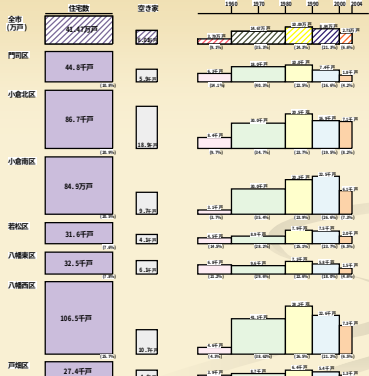
41

各国の建築時期別住宅ストック



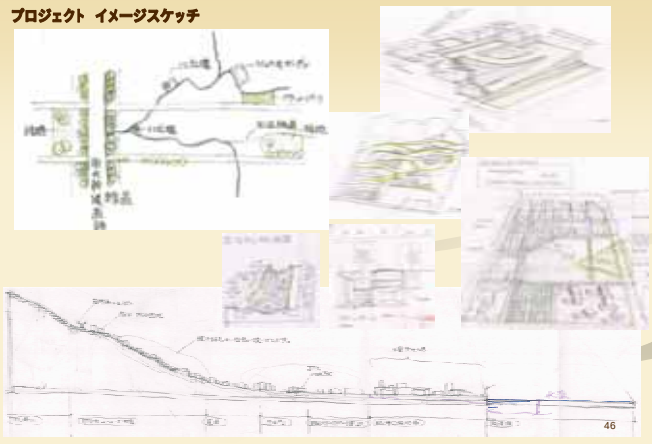
42

建築の時期別 住宅数



5

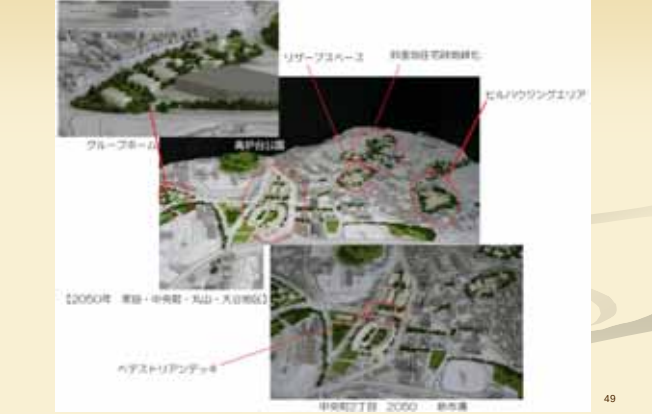
プロジェクト イメージスケッチ



2050年の八幡



2050年 東田・中央町地域 大谷・丸山地区



IV. まとめ

八幡中心地区の長期課題への対応	人口構造	人口減少 少子・超高齢化 Under35激減 家族類型の大変換 核家族(親・子)の減少、単独世帯の激増	トリガプロジェクト	環境モデル都市 ストック型社会 低炭素社会 循環型社会	北九州市 経済産業界 市民統合プログラム
	プロジェクトの考え方	地形と市街地の現状 東西幹線軸と南北生活軸の分断 斜面地区の長高齢化 都市的ストックの再評価 都市インフラの活用 企業用地の活用 地区整備の基本方針 人口構造の検討 経済・産業構造の検討 生活・社会・都市基盤の検討 2050年八幡東区人口5~6万人 経済・産業構造の転換 イノベーション拠点、クリエイティブ産業の形成 生活・社会・都市基盤の長寿命化、資源エネルギーの自律化、低炭素社会形成 歩いて暮らせる街づくり		若年人口の地域転入策の検討 産業構造の転換を図りながら、次世代産業の形成によりイノベーション分野、クリエイティブ産業分野の人材、前期生産人口の転入を図る。 学生の市内での就職口整備。 将来の世帯構成と多様な住宅供給 多岐にわたる家族類型、世代、ライフスタイル、ライフステージに合った環境共生、長寿命、社会資産としての多様な住宅の供給。 前期生産世代への家賃等優遇策。 生活しやすい、歩いて暮らせる・安全安心の住環境整備 道路空間と環境ネットワーク 歩いて暮らせる街づくり(緑道、風の道、都市緑地、ポケットパーク)。 街区間歩行移動。 小羽川の環境化。 狭域循環エコバス。	